

玉永寺通信

2011.1
賀正
第39号

発行：富山市水橋小出 52 玉永寺

編集：石川正穂

2010年報恩講 御遠忌お待ち受けコンサート



本年もよろしく

お願い申し上げます

いよいよ、親鸞聖人750回御遠忌の年を迎えました。

聖人のご生涯と「ただ念仏」の教えに、改めて身を据える一年といたく、決意を新たにいたします。玉永寺では、4月と5月に1泊2日の団体参拝にお参りします。本山でも一年を通して、様々なイベントが開催されます。関心のある方は玉永寺まで、お問い合わせください。

また、昨年のお待ち受け暁天講座の講義録を発行しました。ご希望の方は、申し込んでください。

追伸 前住職と前坊守が、戦死した祖父を偲び、2月にパラオ島へ戦跡参拝に行くことになりました。

玉永寺しゃしん日誌

玉永寺同朋の会

毎月第4土曜日、午後2時から4時まで
広間で開催しています。テキストを住職が
わかりやすく解説し、お茶とお菓子で座談
会のおしゃべりを楽しみます。

参加者には左記のような案内状を郵送し
ています。門徒報恩講が行われるので、11
月から休会しています。

今年**は3月26日**から再開します。ぜひご
参加ください。初参加の方、大歓迎です！

玉永寺同朋会のご案内

日時 9月25日(土) 午後2時～4時
毎月第4土曜日に開催します
会場 玉永寺広間 会費 1回500円
テキスト「おつとめの本」 佛説阿弥陀經

実りの季節となりました。みなさまいかがおすご
しですか。

先回は浄土に咲く色とりどりの蓮の花について
お話しました。「チューリップ」の歌のように、極楽
浄土では青黄赤白と、それぞれの花がそれぞれの
光を放って輝いている。だれもが輝ける世界を
私たちは心の奥底で願っている。このことをお釈
迦さまは、阿弥陀の本願として話されました。

今回は浄土でさえずっている美しい鳥たちの話
をいたします。

11月から休会に入ることにな
りました。今期はあと2回という
こととなりますね。どうぞよろしく
お願い申し上げます。

みなさまぜひ、お誘いあわせご
参加ください。合掌



10月20日・21日 玉永寺報恩講



新たな試みとして20
日のお勤めと法話の後、
朝日町出身の岩谷英樹
さんによるフォークコ
ンサートを催しました。

(表紙)

懐かしい童謡や民謡
をギターで楽しく演奏
してくださいました。本
堂が感動のステージと
なりました。

11月28日 御正忌

聖人のご命日に多くの方々が集まってく
ださいました。勤行、法話の後、美味しく、
ぜんざいをいただきました。



11月29日 グループホーム水橋の家

知人からの紹介で、近くの介護施設を訪
問し、お勤めをしました。

ご本尊を荘厳し、あいさつ、正信偈、嘆仏
偈・重誓偈(焼香)、御文、法話、「しんらんさ
まはなつかしい」紹介、恩徳讃。計40分ぐ
らいの内容にしました。

こちらの施設では初めての取り組みで、
25人ぐらいの入所者と介護の方々に参加
されました。

認知症の方々と関わる初めての試みでし
たが、勤行本なしで正信偈を称える方もお
られ、「末代無智の御文」については多くの
方が大きな声を出して唱和されました。ど
こかにお念仏の言葉が刻まれているのだと
私は涙が出そうになりました。

重度の認知症の方も、そのときは目に光
が戻ったようだったと、後でスタッフの方
がおっしゃってくださいました。

これから三ヶ月に一度のペースで何うこ
とになります。



12月4日 2010年さようならと感謝のつどい

玉永寺行事予定(8月まで)

修正会 1月1日(土)

初お講 2月28日(月)

同朋の会 3月26日(土)

以後 毎月第4土曜日開催

春の彼岸・お講 3月28日(月)

子ども会 4月9日(土)

以後 毎月第2土曜日開催

宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要

団体参拝(募集済み)

第1回 4月24日・25日 5名

第2回 5月27日・28日 39名

永代祠堂経 6月4日(土)・5日

暁天講座 8月15日(月)・16日(火)

朝の連続テレビ小説「てっぱん」を見て

昨年は「ゲゲの女房」が流行語大賞を獲得
 ほど、ヒットしました。続いて放映され
 ている「てっぱん」もなかなかおもしろく、
 毎朝、楽しんでいきます。

明るい家族と毎日を過ごしてきた主人公
 が、とつぜん、自分が「もらい子」であるこ
 とを知ります。唯一の肉親である祖母と共
 に生活することになるのですが、ある夜、
 祖母に悩みを打ち明けます。

「確かめたいんですよ。うちが望まれて生まれ
 たんか。うちが生まれてきた意味はなんな
 んか。」

祖母は突き放すように答えます。

「この世に生まれた意味なんか、人に聞く
 もんやない。自分で探していくもんや。見
 つかるかどうかは、別の話やけどな」

苦難に遭った時、自分は何のために生ま
 れたのか、何のために生きていくかを考え
 ることは、だれにもあります。それは確か
 に、なかなか分かるものではありません。

その後、孫娘は19才の誕生日を迎えます。

お祝いに「母の味」、お好み焼きを食べさせ
 てくれた祖母に語りかけます。

「ありがとう。おばあちゃんが、千春さんを
 育ててくれたけん、うちが今ここにおる。
 ずーっと、考えとった。うちがどうして生
 まれてきたんか。考えても考えても、分か
 らんことだらけじゃ。でもうちが、どう生
 きていきたいんかは、見えたよ。」「どうし
 たいんや?」「うちは、あのお店でお好み
 焼きを焼く。目の前のお客さんを相手に、
 一枚一枚。一日一日、おばあちゃんがそう
 したとみたいに。」

孫娘の言葉は、祖母の思いがけない一言
 を引き出します。

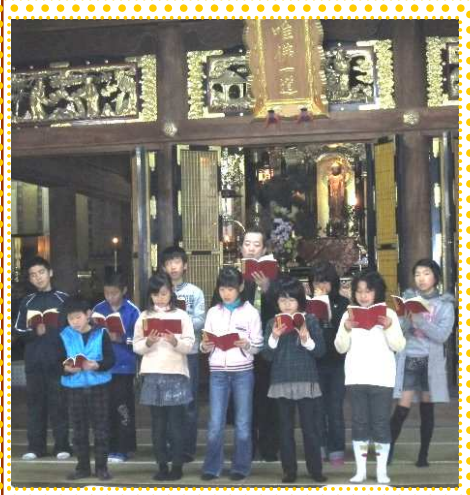
「ありがとうーあんた、よう、生まれてきて
 くれたなあー!」

祖母も娘と喧嘩別れしてしまったことに
 苦しんでいました。それが孫娘の言葉に救
 われた。孫が探していた生まれた意味を、
 なんと、おばあちゃんが見つ付けてくれまし
 た。二人の顔が涙で輝いていました。

仏説無量寿経「仏と仏があい念じあう」と
 いう言葉を思い起こしました。(住職)

2011年（平成23年）年忌表

1 周忌	2010年（平成22年）
3 回忌	2009年（平成21年）
7 回忌	2005年（平成17年）
13 回忌	1999年（平成11年）
17 回忌	1995年（平成7年）
23 回忌	1989年（平成元年）
27 回忌	1985年（昭和60年）
33 回忌	1979年（昭和54年）
50 回忌	1962年（昭和37年）



玉永寺通信

発行所 富山市水橋小出52

真宗大谷派玉永寺

TEL 076(478)0846

インターネット 玉永寺ホームページ

<http://www.gyokueiji.net>